

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.0
Q1 室内環境					0.40	3.2
1	音環境			3.0	0.15	3.0
	1.1 室内騒音レベル	—		3.0	0.40	
	1.2 遮音			3.0	0.40	
	1 開口部遮音性能	—		3.0	1.00	
	2 界壁遮音性能	—		-	-	
	3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—		-	-	
	4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—		-	-	
	1.3 吸音	—		3.0	0.20	
2	温熱環境			3.0	0.35	3.0
	2.1 室温制御			3.0	0.50	
	1 室温	—		3.0	0.38	
	2 外皮性能	—		3.0	0.25	
	3 ゾーン別制御性	—		3.0	0.38	
	2.2 湿度制御	—		3.0	0.20	
	2.3 空調方式	—		3.0	0.30	
3	光・視環境			3.0	0.25	3.0
	3.1 昼光利用			-	-	
	1 昼光率	—		-	-	
	2 方位別開口	—		-	-	
	3 昼光利用設備	—		-	-	
	3.2 グレア対策			-	-	
	1 昼光制御	—		-	-	
	3.3 照度	—		-	-	
	3.4 照明制御	—		3.0	1.00	
4	空気質環境			4.1	0.25	4.1
	4.1 発生源対策			5.0	0.50	
	1 化学汚染物質	内装材及び取付接着剤は全てF4を使用。ホルムアルデヒド以外のトルエン、アセトアルデヒド、キシレン、クロルピリホス等についても放散性が少ない建材を全面的に採用。		5.0	1.00	
	4.2 換気			2.0	0.30	
	1 換気量	—		3.0	0.50	
	2 自然換気性能	—		-	-	
	3 取り入れ外気への配慮	—		1.0	0.50	
	4.3 運用管理			5.0	0.20	
	1 CO ₂ の監視	—		-	-	
	2 喫煙の制御	「健康増進法の一部を改正する法律(平成30年法律第78号)」より全面禁煙。		5.0	1.00	
Q2 サービス性能				—	0.30	3.6
1	機能性			4.0	0.40	4.0
	1.1 機能性・使いやすさ			4.0	0.40	
	1 広さ・収納性	—		-	-	
	2 高度情報通信設備対応	—		-	-	
	3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化基準を満たしている。		4.0	1.00	
	1.2 心理性・快適性			5.0	0.30	
	1 広さ感・景観	—		-	-	
	2 リフレッシュスペース	—		-	-	
	3 内装計画	地域住民が利用することを考慮し、温かみを感じられる空間として、多くの人々が集まる多目的ホールの床及びホールトップライト部のルーバーは、木マテリアルを導入してリビング的な演出を行う。また、インテリアパースによる内装計画の事前検証を実施している。		5.0	1.00	
	1.3 維持管理			3.0	0.30	
	1 維持管理に配慮した設計	—		3.0	0.50	
	2 維持管理用機能の確保	—		3.0	0.50	
2	耐用性・信頼性			3.6	0.30	3.6
	2.1 耐震・免震・制震・制振			3.8	0.50	
	1 耐震性(建物のこわれにくさ)	25%増の耐震性を有する。		4.0	0.80	
	2 免震・制震・制振性能	—		3.0	0.20	
	2.2 部品・部材の耐用年数			3.8	0.30	
	1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級の等級2相当。		4.0	0.20	
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—		3.0	0.20	
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:複層ビニル床タイル,内壁:ビニールクロス,天井:石膏ボード		5.0	0.10	
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—		3.0	0.10	
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。		5.0	0.20	
	6 主要設備機器の更新必要間隔	—		3.0	0.20	
	2.4 信頼性			3.0	0.20	
	1 空調・換気設備	—		3.0	0.20	
	2 給排水・衛生設備	—		2.0	0.20	
	3 電気設備	—		3.0	0.20	
	4 機械・配管支持方法	耐震クラスAとしている。		4.0	0.20	
	5 通信・情報設備	—		3.0	0.20	

3	対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
	3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	—	-	-	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3	4.0	1.00		-	
	3.2 荷重のゆとり		—	3.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20		-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20		-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10		-	
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10		-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20		-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	2.2
1	生物環境の保全と創出		—	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.6
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	4.2
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.71	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		自然光利用のためトップライトとハイサイドライトを計画。	4.0	0.10	-	-	4.0
3	設備システムの高効率化		BEI=0.37	4.5	0.50	-	-	4.5
	集合住宅以外の評価			4.5	1.00	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50		-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50		-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-		-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-		-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.0
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	自動水栓などに加えて、節水型便器などを用いている。	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
	2.1	材料使用量の削減	—	2.0	0.11	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.22		-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.22		-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	1.0	0.22		-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	-	-		-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS+仕上材およびGL工法を採用。	5.0	0.22		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70		-	
	1	消火剤	—	-	-		-	
	2	発泡剤(断熱材等)	—	3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.6
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率54%	4.8	0.33	-	-	4.8
2	地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
	2.1	大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50		-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25		-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25		-	
	3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25		-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	2.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	1.00		-	
	2	振動	—	-	-		-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40		-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	-	-		-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30		-	
	3.3	光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目の過半を満たしている。広告物照明を行っていない。	4.0	0.70		-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30		-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○	-		-						
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		○	○	-	-	-	○	-		-				-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-		-	-				-	-		-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	-	-	-	-	-	-	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	2.0		-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	1.0	1.0	-	-	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0		-	2.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0		-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	12.0		1.0	1.0	3.0	3.0	2.0	-	-	2.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	1.0	-		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)			
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床	
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH	
昼光率	-				
自然換気有効開口面積率	-				

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	.0㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
--------	--------	----	--------	------	---------	-----

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量	-	VA/㎡
---------	---	------

1.2.1 広さ感・景観

天井高	-	m
-----	---	---

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース	-	レストスペース	-
------------	---	---------	---

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数	50~60	年
--------	-------	---

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔	-	年
--------	---	---

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔	20	年
--------	----	---

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔	-	年
--------	---	---

3.1.1 階高のゆとり

階高	-	m
----	---	---

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率	24.5%	
-------	-------	--

3.2 荷重のゆとり

床荷重	-	N/m2
-----	---	------

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	18%	建物緑化指数	0%
--------	-----	--------	----

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率	73%	水平投影面積率	18%	地表面対策面積率	25%	舗装面積率	69%
-----	-----	---------	-----	----------	-----	-------	-----

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _m	0.71	断熱等性能等級	等級4 相当
----------------------	------	---------	--------

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%
--------------	---------	-----------	------	-----------	------

通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%
-----------	------	-----------	------

太陽光	4.9kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW
-----	-------	------	------	-----	------

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

BEI/BEI _m	再エネ有	0.37	無	0.43	オフサイト再エネ有	-	-
----------------------	------	------	---	------	-----------	---	---

集合住宅の評価

一次エネ削減率	再エネ有	無				-	
---------	------	---	--	--	--	---	--

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%
-------	------

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-
--------	---	---------	---	-------------	---

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率	0.0%
------	------

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
---------------	--------------

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
---------------	--------------

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
---------------	--------------

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	31%	隣棟間隔指標R _w	9.54
-------	-----	----------------------	------

地表面対策面積率	40.0%	屋根面対策面積率	0.0%	外壁面対策面積率	0.0%
----------	-------	----------	------	----------	------

見付面積S _b	142㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	41.28 m	基準高さH _b	10.9 m
--------------------	------	------------------------------	---------	--------------------	--------

緑地	257㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡
----	------	----	---	--------	---	--------	---	----------	---